

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : ネブラスカ大学カーニー校

留学期間 : 平成 25 年 8 月 15 日 ~ 平成 29 年 12 月 15 日

2017 年 12 月 15 日にネブラスカ大学カーニー校を卒業しました。ペルーでの交換留学を含め、4 年半での卒業となりました。また、これまでの努力が実り、GPA3.9 の Honors で卒業することができました。この間、やりたいことには全て挑戦したので、後悔は全くありません。4 月から日本での就職も決まり、思い残すことはありません。大学では国際学とスペイン語を専攻、ビジネス学を副専攻しました。私が大学で勉強した内容について少しご紹介いたします。

### 1. 国際学(International Studies)

国際学は大変幅広い学問なのですが、私の大学には 3 つのテーマと 3 つのエリアから 1 つずつ選ぶシステムでした。3 つのテーマは、文化、経済と貿易、芸術があり、私は経済と貿易を選択しました。このテーマの中には、International Marketing, International Management など“International”に重点を置いた授業を履修しました。3 つのエリアに関しては、ラテンアメリカ、アジア、ヨーロッパがあり、私はラテンアメリカを専門にしました。スペイン語や文学、ビジネススペイン語などの授業を履修しました。国際学の良いところは、幅広い内容の授業を履修できることです。その反面、専門性が身につかないところが弱点に感じる時がありました。

### 2. スペイン語

スペイン語を第二専攻にし、主に会話や文法、文学やスペイン語圏の歴史などを学びました。周りは、両親がスペイン語圏出身だったり、高校でスペイン語を習ったことがあったりしたので、大学でゼロから始めた私は、大変苦労しました。ペルーへの交換留学プログラムやチューターを利用して、実用的なスペイン語の習得に努めました。

### 3. ビジネス学

副専攻であるビジネス学でも、会計学から経営学まで幅広く勉強しました。私は、将来どういう職種に就きたいか決めていなかったため、様々な授業を履修することによってどの分野が自分に合っているか知ることができたことは大きなメリットになりました。

アメリカの大学の良い点は、複数の専攻や副専攻を持つことができることです。また、専攻の変更も簡単なので、自分に合っていないと気づいたら、試験などを受けずにいつでも変更することができます。さらに、日本の大学と比べて奨学金が出やすいと思います。実際に私も、国際学の奨学金をもらっていて、授業料はほとんど払っていませんでした。卒業の際には、GPA が 3.5 以上あれば優等生 (Honors Student)とみなされ、表彰されます。私も、表彰された瞬間は、努力してきたよかったと心から思いました。私は学業に対して主体的かつ積極的に取り組みました。授業前に「前回よりも多く発言する」などの目標を掲げたり、クラスのプロジェクトリーダーを務めたりしました。夏学期に履修した刑事司法の授業が、週に 4 回で 1 日 3 時間だった上に、内容も難しく、初めは A を取るのは困難だと思いました。しかし、そこで諦

めず、自分でリサーチしたり、わからない部分は教授に質問しに行ったりしました。このように小さな努力を積みかさね、GPA3.9を維持しました。

日本での就職についてはビジネスコンサルタントとなり、これまで大学で学んできた国際学とビジネス学の知識を活かしていきたいと考えています。日本の多くの企業は海外進出が避けられない状態なので、学生時代に身につけた国際感覚と知識は役に立つと思っています。まだ先の話になるとは思いますが、日系企業の中南米への進出も増えていくと思うので、そこでこれまで培ってきたスペイン語力とペルーでの交換留学での経験を活かしたいです。

最後に、留学中は苦労が多く、悩んだり泣いたりすることもありました。授業では内容を理解するのに苦労したし、ルームメイトとは言語の壁が原因で喧嘩したこともありました。課題の多さについていけず、何日も徹夜したこともありました。慣れない環境での生活は想像していた以上に大変でした。実際に、私と同じ年に来た日本人学生の半分は、途中で挫折して帰国しています。ですが、苦労が多かった分成長できたと思うし、日本国内の学生に負けない強みもできたと思います。留学は大きな決断ですが、日本の大学と海外の大学、どちらが自分の将来にとって良いか、どちらの方が自分は成長できるか、しっかり考えて決断して頂きたいと思います。ちなみに、私が留学を決意した動機は、難しい環境に身を置いて、成長したいと思ったからです。高校生の時の語学留学で初めて「言葉が伝わらない」という状況に遭いました。不安と戸惑いを感じたのと同時に、その挑戦的な環境と新鮮さにワクワクもしていました。もっと困難なことに挑戦し、自分を成長させたいと思いました。又、高校生の時から、世界の発展に貢献できる人材になることを目指してきました。これを実現させるには、世界共通語である英語の習得はもちろん、異文化対応力やコミュニケーション能力、そしてリーダーシップスキルも必要だと考えました。その時に、多文化国でリーダーシップスキルを大切にしている国柄のアメリカで大学に通いたいと思い、留学を決意しました。実際に留学して、それらのスキルが身についたと思うので、悔いはありません。難しい決断ではありますが、留学すると決めたら、思いっきり泣いて笑って、全力で学生生活を過ごして、是非最後までやり遂げて頂きたいと思います。